

県が目安とする基準値の設定について

令和2年8月31日

《基本的な考え方》

- 新しい生活様式を取り入れた日常生活を守るため、早期発見（検査）→早期隔離（入院）の体制を維持し、感染拡大防止に歯止めがかからない事態を回避する。
- このため、国の設定するステージⅢに至る前に、感染拡大防止に向け、県独自のアクションを起こすこととし、広島県におけるこれまでの経験を踏まえ、県独自のアクションを起こす目安となる基準値を設定する。

《基準値について》

- 国の設定したステージⅢでは、新規患者数が1日あたり60人の新規感染者が発生し、420人が入院や宿泊療養している状態であり、一定の行動制限を導入せざるを得ない状況となる。そのような状況になる前に対策を強化するための、県独自の「警戒基準値」を設定する。
- 広島県においては、PCR検査の拡充、入院病床・軽症者用ホテルの確保が進んでおり、これまでの感染ピークの状況には対応できると考えられる。

【県として目安とする基準値】

	医療提供体制等への負荷		①療養者数	②PCR陽性率	③新規報告数	感染の状況	
	病床のひっ迫具合 病床全体	うち重症者用病床				④直近一週間と先週一週間との比較	⑤感染経路不明割合
県として目安とする基準値	・最大確保病床の占有率 1/5以上	・最大確保病床の占有率 1/5以上	人口10万人当たり全療養者数6人以上	モニタリングのみ	4人/10万人/週以上	直近一週間が先週一週間より多い。	50%

【これまでの感染ピークの状況に対応できる理由】

- ◇PCR検査可能数を大幅に引上げており（130件→1,550件）、早期発見（検査）に支障はない。
- ◇これまでの入院・療養患者数ピーク時（4/22、128名）より大幅に病床、軽症者用ホテルの確保が進んでおり、また退院基準の見直しにより適切な時期に退院可能となっている。
- ◇これまでの患者受け入れにより医療者側の経験値が明らかに向上しており、またウイルスに関する知見も蓄積されていることから、切り札となる薬剤がない状況においても適切な対応ができています。

【8/7 政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の参考指標】

	医療提供体制等への負荷		①療養者数	②PCR陽性率	③新規報告数	感染の状況	
	病床のひっ迫具合 病床全体	うち重症者用病床				④直近一週間と先週一週間との比較	⑤感染経路不明割合
ステージⅢの指標	・最大確保病床の占有率 1/5以上 ・現時点の確保病床数の占有率 1/4以上	・最大確保病床の占有率 1/5以上 ・現時点の確保病床数の占有率 1/4以上	人口10万人当たり全療養者数15人以上	10%	15人/10万人/週以上	直近一週間が先週一週間より多い。	50%
ステージⅣの指標	・最大確保病床の占有率 1/2以上	・最大確保病床の占有率 1/2以上	人口10万人当たり全療養者数25人以上	10%	25人/10万人/週以上	直近一週間が先週一週間より多い。	50%